

今シーズンのインフルエンザ

長期休暇が明けた第 19 週(5 月 6 日～12 日)のインフルエンザの定点当たり報告数は 0.69 で、流行の目安である定点当たり 1.00 を下回りました。今シーズン(2018-2019 年)の流行を過去の流行と比較すると、今シーズンの特徴は急激な患者数の増加と過去最高値を記録した定点当たり報告数(84.09)です(図 1)。今シーズンの流行期間(2018 年 12 月～2019 年 4 月)の患者の年齢分布は、2018 年は 15 歳未満が 75%、60 歳以上は 3%を占め、2019 年の年始休暇以降、15 歳未満は 65%に減少しました(図 2)。病原体定点で流行期間に毎週採取された検体から検出されたインフルエンザウイルスは、AH3 が 318 件、AH1pdm09 が 179 件、B 型が 43 件(ビクトリア系統 42 件、山形系統 1 件)で、流行入りした 12 月は AH1pdm09 が優勢で、1 月から 3 月は AH3 が優勢となりました(図 3)。

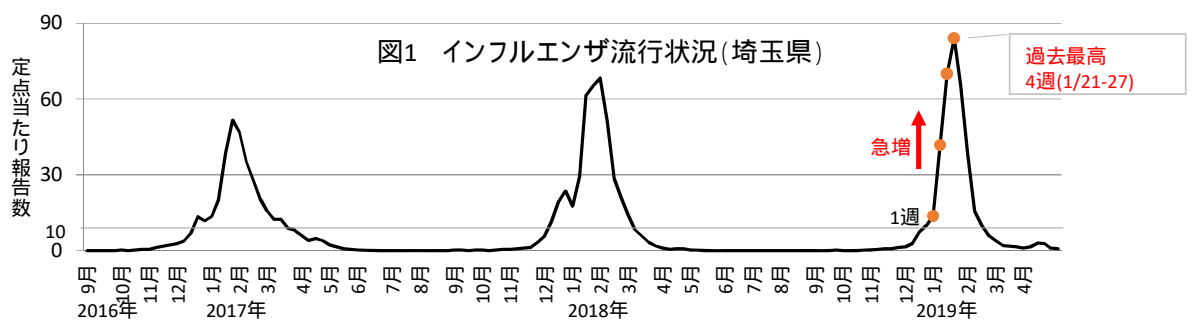


図1 インフルエンザ流行状況(埼玉県)

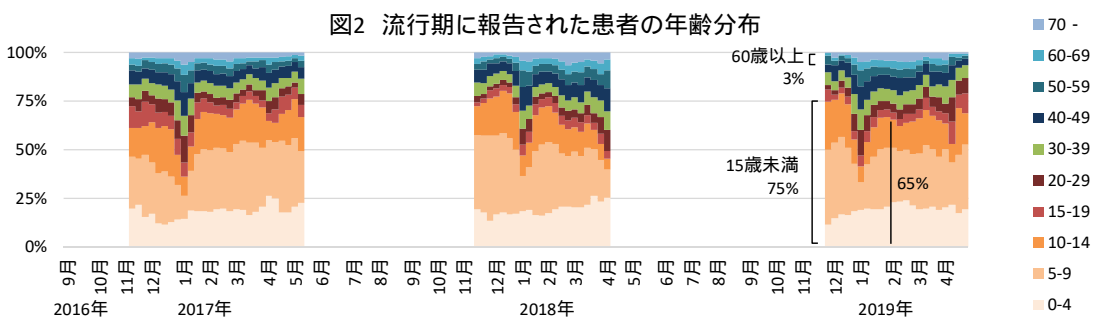


図2 流行期に報告された患者の年齢分布

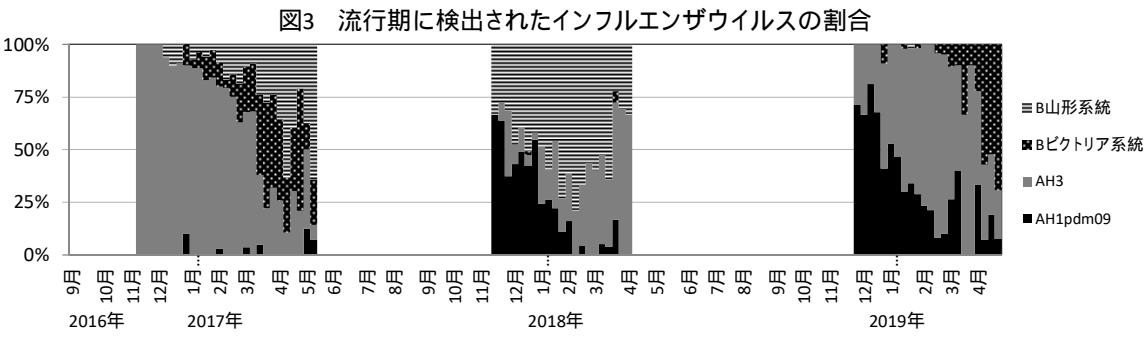


図3 流行期に検出されたインフルエンザウイルスの割合

患者の年齢分布と流行ウイルス型の分布の推移から、年齢によってウイルス型に対する感受性に違いがあったことが推測されました。病原体定点医療機関の先生方には引き続き検体採取(各月 1 検体)へのご協力をお願いします。